

平成 27 年 7 月 臨時教育委員会会議録

日 時	平成 27 年 7 月 30 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 5 時 11 分
場 所	秦野市役所本庁舎 4 階議会第 1 会議室
出席委員	委員長 望月 國男 委員長職務代理者 高橋 照江 委員 飯田 文宏 委員 内田 晴久 教育長 内田 賢司
欠席委員	なし
委員以外 の出席者	教育部長 水野 和成 教育総務課課長代理 (庶務担当) 鈴木 利昭 教育総務課長 山口 均 教育総務課庶務担当主任主事 水野 統之 教育指導課長兼 教育指導課指導主事 横山 潔 教育研究所長 柏木 荘一 教育指導課指導主事 高橋 明久
傍聴者	19 名
会議次第	<p style="text-align: center;">7 月 臨時教育委員会会議</p> <p>日 時 平成 27 年 7 月 30 日 (木) 午後 1 時 30 分</p> <p>場 所 秦野市役所本庁舎 4 階議会第 1 会議室</p> <p style="text-align: center;">次 第</p> <p>1 開 会</p> <p>2 議 案</p> <p>(1) 議案第 18 号 平成 28 年度に使用する中学校の教科用図書の採 択について</p> <p>(2) 議案第 19 号 平成 28 年度に使用する小学校の教科用図書の採 択について</p> <p>(3) 議案第 20 号 平成 28 年度に使用する学校教育法附則第 9 条に よる教科用図書の採択について</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉 会</p>
会議資料	別紙のとおり

望月委員長

それでは、ただいまから臨時教育委員会会議を開催いたします。
お手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。

教育指導課長

今回の会議は、議案第18号「平成28年度に使用する中学校の教科用図書の採択について」、議案第19号「平成28年度に使用する小学校の教科用図書の採択について」及び議案第20号「平成28年度に使用する学校教育法附則第9条による教科用図書の採択について」の3本です。

まず、議案第18号「平成28年度に使用する中学校の教科用図書の採択について」、提案理由の説明を事務局からお願いします。

それでは、議案第18号「平成28年度に使用する中学校の教科用図書の採択について」のご説明をいたします。

本議案は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項により、平成28年度秦野市立中学校で使用する教科用図書を採択していただきたく、提案するものでございます。

これまで、教育委員会会議で議決していただきました採択基本方針に従って、秦野市教科用図書採択検討委員会を設置し、採択に向けた調査検討を行いました。この検討委員会は、第1回を5月11日に開催し、調査研究の進め方などについて協議をしました。第2回は7月10日に開催し、各種目調査員からの教科用図書の調査研究結果の報告を受け、平成28年度に中学校で使用する15種目についての検討を行いました。この報告については、7月17日付で、秦野市教科用図書採択検討委員長より、報告書として教育委員会に提出され、委員の皆様にも同日送付させていただきました。

本日の会議では、まず採択検討委員会の検討結果報告をご報告申し上げます。その後、協議の上、種目ごとに1者の教科用図書を採択していただきたいと思っております。

望月委員長

ありがとうございました。

これまで、中学の教科用図書の採択について、教育委員長の私あて、あるいは教育委員会あてに、請願、要望、意見書等、全部で12件出ております。それらについては、これまでの定例教育委員会会議の際などに配布され、皆様に届いていると思います。

さて、採択に当たっては、まず、中学校で使用する教科用図書について種目ごとに事務局から説明を行い、それを受けて我々教育委員で協議し、その後、昨年度と同様に、記名投票にしまして、その一番投票数が多かった1者に決定する、こういう方法で進めていきたいと思いますがいかがでしょうか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、委員の皆さんには既に教科書をよくご覧いただいておりますし、各教科については採択すべき教科書を考えておられるとは思いますが、事務局の説明を聞いた上で意見交換、議論をしていただき、投票

で決定をいたしたいと思います。

なお、票が割れた場合、最も多い得票でも過半数を超える3票までに至らなかった場合は、再度意見交換、議論をしていただき、再投票を行うということにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

—異議なし—

望月委員長

投票することとなりましたので、立会人を指名したいと思います。高橋委員長職務代理に立会人をお願いしたいと思いますのですが、よろしいですか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、高橋委員に立ち会いをお願いいたします。

また、すべての種目の記入が完了した時点で第18号議案をお諮りし、そこで採決を行うということにいたしたいと思います。それでよろしいですか。

—異議なし—

教育指導課長

お手元の資料の一覧表にございます教科用図書は、すべて文部科学省による検定済みの図書です。各者それぞれ学習指導要領の目標に沿いながら、工夫した編集がされております。

第2回秦野市教科用図書採択検討委員会において、各教科・種目別に出ております教科用図書について、すべての教科・種目に共通する観点として、教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連、あるいは、かながわ教育ビジョンとの関連、内容、構成や分量、装丁、表記、表現について、各教科や種目別の観点による内容について協議を行っております。その結果については、お手元の報告書にあるとおりです。その概要について、簡潔にご報告させていただきたいと思います。

国語は、発行者が、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書の5者になります。

教科・種目別の観点としましては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について、教材の内容及び学習指導要領に示された言語活動例は適切に取り上げられているか。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、教材は適切に取り上げられているか。読書に親しむ態度を養うための適切な配慮が見られるか。また、目的に応じた読書のための教材が適切に取り上げられているかになります。

教科用図書採択検討委員会の主な意見ということでご報告させていただきます。東京書籍は、紹介されている本の冊数が多く魅力的と感じる。小学校は学習の中で聞く・話す・意見を交換するという意識を取り組んでいるので、中学校でもこのような話し合う場を継続していることがよいと思う。小学校とのつながりを考えると、東京書籍の聞く・話す・話し合うという取り上げ方はスムーズに移行できると思

う。また、領域別に色分けした構成はわかりやすく、いい工夫だと思う。東京書籍は小学校とのつながりを意識していてわかりやすいと思う。東京書籍は文字が並ぶだけでなく全体の構成が工夫されていると思う。教育出版は小・中学校のつながりで見ると漢字の取り上げ方で工夫が見られると思う。小中学校のつながりを考え、生徒が困らないようにする配慮も必要だと思う。

以上でございます。

望月委員長
飯田委員

ご意見、ご質問等お伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

私も小中学校に子どもがいますが、自分の子供に限らず、最近子どもの読書時間が減ってきていると感じています。読書は、子どもの心を豊かにし、様々な知識や将来役立つ視点を与えてくれるものと考えています。子どもが多くの本に出会い、読書を通して将来の可能性を広げることができるのがよいと思っています。そういう視点から、東京書籍は、本を300冊以上掲載しているということで、子どもの読書への意欲や気持ち広がって、この点は大変良いと思っています。

望月委員長
内田委員

ほかにどうでしょうか。

国語の教科書についてですが、どれも日本の伝統的な言語文化に触れているということで、どれも良い教科書だなというように思いますけれども、前回もそうだったかと思うのですが、光村図書は、日本の伝統色を一覧にしていたりして魅力を感じていますし、3年生では、国語史も記載されているということで特色としては良いかなというように感じています。また、飯田委員がお話しされたように東京書籍についても、305冊の紹介本があったりだとか、なによりもよいのは、1年間で学ぶ国語の内容というものが、綴じ込みのようになっていて、国語というどうしても文章を読んだり、漢字を覚えたりということになりがちなのですが、学ぶことのテーマが紹介してあることはとても良いのかなというように思います。さらに資料編には、古典作品も多数紹介してあって、生徒が関心を高めるうえでは良い教科書だなというように思います。

望月委員長
高橋委員

ほかにどうでしょうか。

私もどの教科書も読みやすく作られているというのが第一印象です。その中でも、教育出版は、落ち着いた印象で、言葉にこだわりをもってつくっておられるなということを感じました。また、巻頭でこの教科書の使い方が示されておりまして、学びの重点として、教材ごとに何を学べるかが説明してあります。主体的に学習に取り組む態度が身につくのではないかと思います。また、東京書籍でもそれぞれ学ぶ目標が示されていて、生徒が目的をもって学習に取り組む工夫がされていると考えました。また、飯田委員、内田委員が言われましたように、読書案内

望月委員長
教育長

も大変充実しており、大変ためになると思えました。また、教材の中では、「少年の日の思い出」や「走れメロス」などいろいろな発行者の中で同じものを扱っているものが多々あります。その中でも東京書籍の挿絵等の効果がすばらしく、とても強いインパクトを感じました。中学生が読み物を読む場合、そのような効果が大事だと思いますので、東京書籍が良いと感じております。

ほかにどうでしょうか。

皆さんがおっしゃられたように、それぞれの教科書がそれぞれの工夫をされているとつくづく思いますが、その中で教育出版の1年生の巻末を見ましたら、小倉百人一首がすべて掲載されているという特色があります。改めて古典というものに興味を持つきっかけになるのかなという思いがしました。それから同様に古典作品への誘いということで1年2年3年それぞれに古事記ですとか、方丈記ですとか、あるいは古今和歌集ですとかそういう扱いで取り扱ってる。それから伝統芸能への誘いということで、落語と歌舞伎と狂言という、そういったこともやっているということで、そうしたことに対する興味を引くように意識して編集されているなというように思いました。それから、三省堂は、「日本文学名作集」ということで、それぞれの作品の冒頭部分を年代順に紹介して、これもまた興味を引くような仕組みを作っておられる。それから、光村図書は、先ほど内田委員も言われていましたけれども、日本の伝統色ということで、色々の言葉ということで、1年生が緑、2年生が赤、3年生が青という色の微妙な違いを表現しておりまして、国語でなぜという気もしたんですが、改めて日本語でいうところの色の違いというものをあえて扱っている、それもまた一つの特徴かなと思いました。また、調べてみたいと思った時にさらに学習を広げることのできる仕掛けというのはどの教科書にもあるわけですが、そういう中では東京書籍は、巻頭に1年生の四季を楽しむ言葉、2年生は四季を彩る言葉、3年生が四季を味わう言葉という形で掲載をしております。レポートや手紙の書き方、他教科の学習や実生活につなげる教材もありますし、また、小学校では東京書籍を使用しているわけですが、接続という意味では東京書籍というものもいいのではないのかなという考えに至っております。

望月委員長

それでは私の方ですが、東京書籍の巻頭にある教科書の使い方、これは非常にわかりやすいと思いました。それから生徒につけたい力を明確にして、教材を扱っているということを読み取ることができました。光村図書は、各学年の巻末資料に、文学的な文章を読むために、それから説明的な文章を読むために、これらは発達段階を踏まえた作品、文書を読むためのポイントを示していて、内容理解や作品の読み方を深める

のに大変役に立つのではないかと思います。それから、どの学年もそうですが語彙指導というのがありまして、各学年の巻末資料に1年生が感想を表す言葉とか、2年生が感情を表す言葉とか、あるいは3年生は抽象的な言葉というのがあります。こういったものが生徒が実際の作文で使用できる語彙一覧であって、各学年の指導に役立つのではないかとそういった印象を持ちました。

ほかにありますか。

よろしければ、投票に移りたいと思いますが、よろしいですか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、国語について投票を行います。投票用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

望月委員長、光村図書。高橋委員長職務代理、東京書籍。内田委員、東京書籍。飯田委員、東京書籍。内田教育長、東京書籍。

以上でございます。

望月委員長

それでは開票の結果、中学校の国語につきましては、東京書籍4票、光村図書1票で、東京書籍に決定いたしました。

続いて、中学校書写について移りたいと思います。

事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

書写の発行者は、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書の5者になります。

教科・種目別の観点といたしましては、毛筆と硬筆の教材例及び字形や配列、運筆など基礎的な事項に関する教材例について適切に取り扱われているか。楷書、行書、漢字、仮名の分量とその配分は適切であるか。文字文化や社会生活との関連を図った教材例は適切に取り扱われているかになります。

教科用図書採択検討委員会の主な意見ということでご報告させていただきます。書く時のお手本だけではなく、見てわかるような記載、例えば東京書籍や教育出版の色や音で書く時の手がかりがあるものがよいと思う。小学校の採択の時に「トン・スー・ピタ」という擬音表現は力加減が伝わりやすいと話題になり、今回の中学校も東京書籍のこの取組みはよいと思う。教育出版は、「日本建築と書」の中で掛け軸などが紹介されていてよいと思う。光村図書の資料は面接シートや数字、アルファベットの取り扱いがあり、魅力的であると感じた。指でなぞって大きさ感覚をつかませるためには、原寸大の手本が有効ではないかと思う。また、小学校の教科書は大判なので、中学校1年生では小さな手本をもとに大きく書くことは難しいと思う。

望月委員長

以上でございます。

ありがとうございました。

以上の説明ですが、ご意見、ご質問等ありますか。

教育長

すべての教科書を見て、印象的に思いましたのは、それぞれに常用漢字表が載っているんですけども、小学校中学校で2, 136文字を、小学校1, 006文字、中学校1, 130文字と別々に掲載しているところと、色分けで全体を載せているところと違いが教科書の中にありました。それと合わせて、行書体だけのところと、それから楷書体も載せているところと、あるいは東京書籍でしたか、人名漢字表862というものを載せているところもあるというそれぞれに個性、特性というものがあるんだなということを知ったわけですが、そういった中で先程の説明の中にもありました、昨年の小学校の採択の時にもありました東京書籍の「トン・スー・ピタ」という擬音表現、これはやはり毛筆の筆運びについて力の加減を直接体でわかるという意味でそうした工夫が良いのではというように思いました。

それから学校図書は毛筆の手本が半紙の大きさに近いサイズを掲載してあります。これも大きさを感じることができて良いのかなと。また各学年の最後に書初めをしようという表記で手本を示している、これも大変わかりやすくなっているのかなというような気がいたしました。

望月委員長
内田委員

ほかにどうですか。

書写ということで、学校図書は、篆刻などは自分で書いたものを自分のものとして意識していくうえで、おもしろいなと感じたり、手本のサンプルも多いのかなという印象を受けています。ただ東京書籍の方が、中身を見るとはがきとか手紙とか日常生活にそのまま応用できる教材が多いのかなと思います。

また、先程、国語の方で東京書籍ということになりましたが、同じ発行者であればつながりも出てくるのかなという気もしております、私の印象では、東京書籍が一番よかったなと思っております。

望月委員長

それでは私の方ですが、三省堂は考えを話し合おうというところから入って、振り返ろうで終わっているわけですけども、こういった工夫というのは主体的に学べる配慮が覗えました。また、東京書籍の資料ページにある「いろいろな書式」の中で、はがきのあて名の書き方が手本として載っていますし、相手の住所や名前、自分の住所と名前の位置、各順番まで丁寧に載せているなと思いました。さらにエアメールもありまして、グローバル社会が進む中で、これから世界とのつながりを増す子どもたちにはとても参考になるのではないかなと感じました。

高橋委員

私も、楷書の書き方については東京書籍が、「トン・スーピタ」でわかりやすく説明されていると思います。

また、光村図書も筆使いを濃淡で表していきまして、筆圧が数字で1、2、3と書かれているのでよくわかるのではないかと思います。また、日常生活に使える「のし袋」「封筒」などの実務的な内容は、「日常の書式」というページが用意されておりまして、光村図書がすごく充実していると感じました。特に往復はがきの書き方などでは、自分に宛てられた敬称などは二重線で消すということまで書いてあります。最後の方には、常用漢字一覧表がありますが、そこでは楷書と行書の両方の書き方が示されておりまして、楷書と行書の使い分けの際に、大変役立つのではないかと思います。

飯田委員

先程、採択検討委員会の中でも触れていましたが、教育出版の日本建築と書というところですが、掛け軸や扁額、屏風、昔の家でしたら、必ず床の間があって、そこに掛け軸がかかっていた、そこが書と芸術を結びつけるといった感じで魅力を感じました。

毛筆では、書くときに擬音などが使われていて、わかりやすく示されているのがよいと思いました。もう一つ、東京書籍の方ですが、こちらにも毛筆の手本の横にインデックスがあり、書く時のポイントが示されていて、これも大変良いと感じました。

望月委員長

ほかにどうでしょうか。

それでは投票に移りたいと思いますが、投票に移ってもよろしいですか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、書写について投票を行います。投票用紙の配付をしてください。

—投票—

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

望月委員長、東京書籍。高橋委員長職務代理、光村図書。内田委員、東京書籍。飯田委員、東京書籍。内田教育長、東京書籍。

以上でございます。

望月委員長

それでは開票の結果、中学校書写につきましては、東京書籍が4票、光村図書が1票。よって東京書籍に決定いたしました。

続いて、中学校社会、地理的分野に移ります。

事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

社会 地理的分野の発行者は、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版の4者になります。

教科・種目別の観点としましては、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察するために、社会的事象に関する基礎的な知識や技能等を習得させるよう配慮されているか。思考力・判断力・表現力等の能力育成について配慮されているか。統計その他の資料は、最新のもので、信頼性が

あり、生徒の発達の段階に即しているかになります。

教科用図書採択検討委員会の主な意見ということでご報告させていただきます。教育出版のカラーユニバーサルデザインは、地図の隣どうしを同じ色彩にしないような配置で見やすくなっていると思う。地域学習の関東地方のところでは、神奈川県、できれば秦野市が扱われているものを使いたいと思う。帝国書院は、レイアウトや文字の大きさなどが読みやすい紙面だと思う。帝国書院の冒頭の世界や日本の諸地域の学習や写真を中心としたページを設けている部分はインパクトがある。東京書籍の見開き1単位時間ごとに構造化されている部分については、教師も生徒も取り扱いやすいと思う。東京書籍は、5単位時間の予備時間を設け、柔軟な指導計画が可能になっている。

以上でございます。

以上の説明であります。ご意見、ご質問等お願いします。

学習指導要領の中で、思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、言語活動の充実を図ることに配慮することが求められていますが、どの教科書も説明や要約、自分の言葉で表現するなどの学習活動を行えるように大変工夫されているという印象を受けました。

その中で東京書籍が、教科書の見開きで学習の導入から課題づくり、まとめ、発表というところまで示してまして、学習の流れが把握しやすいのかなと思います。それから同様に地理のスキルアップですとか、地理にアクセスといったこういう表記で、課題ですとか関連する項目に発展させるという仕組みが作ってあり、工夫されているなという印象を持ちました。

私は、帝国書院はレイアウトや文字の大きさが読みやすい紙面になっているのではないかなと思います。また、竹島や尖閣諸島などの日本の固有領土としての記載をしている、これはどの教科書もしているわけではありますが。帝国書院では、竹島について、地図上の位置だけでなくそこで漁をしている昭和初期にとられた写真も掲載して、現状についての説明を加えていて、同時に現在の写真だけでなく、過去の写真を掲載してわかりやすくする、子ども達に理解しやすいようにしているという工夫があつて良いかなと思っています。

ほかにどうでしょうか。

地理ということで、世界と日本と大きく二つの視点があるかと思えます。私の印象では、教育出版が、前半に世界的な地理ということで、ほかの教科書も使っていることは使っているのですが、ヨーロッパやアメリカといった世界地理の扱い方としては、とても見やすいという印象があります。視点も良い取組みで記載されていると思います。

また、帝国書院では、地域学習の関東地方の記述の中で、ニュータウ

望月委員長
教育長

望月委員長

内田委員

望月委員長
高橋委員

ンの地図において秦野市という地名も出ていて、秦野市の中学生が学ぶうえでは、自分の住んでいる都市の名前が教科書に出てくることは、先程、検討委員会の意見の中にもあったかと思いますが、教科書としては魅力があるという、きっかけづくりにはとても良いのではと思います。

ほかにどうでしょうか。

小学校から中学校へのつながりということで考えますと、小学校では日本を中心に学習していて、中学校では世界に目を向けていくことになると思います。どの教科書も写真を多く取り入れていて、とても見やすいと言う印象を受けましたけれども、帝国書院は最初の見開きのページで、「世界に広がる日本の文化と技術」というページがありまして、寿司やカラオケ、アニメなど世界に伝わっている日本のものが紹介されています。

また、構成においても、最初に地球全体、次に世界の地域を6つに分けて学び、そのあと日本について学ぶという形式はすべての教科書がそうになっていましたが、私は帝国書院がすっきりとまとまっていてわかりやすいのではないかなと感じました。

飯田委員

今、高橋委員からどの教科書も写真が多いということが言われましたが、中でも帝国書院は、地図やグラフ写真などが大変大きく、そして多く掲載されているのが、とても見やすくて良いと感じました。写真が中心のページも多くあり、子ども達の関心が高まるような工夫がされていると思いました。あと地理的分野に関しましては地図との関連性も考えることが必要だと思います。

望月委員長

それでは意見がなければ投票に移りたいと思いますが、投票に移ってもよろしいですか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、社会 地理的分野について投票を行います。投票用紙の配付をしてください。

—投票—

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

望月委員長、帝国書院。高橋委員長職務代理、帝国書院。内田委員、帝国書院。飯田委員、帝国書院。内田教育長、東京書籍。

以上でございます。

望月委員長

それでは開票の結果、中学校社会、地理的分野につきましては、帝国書院が4票、東京書籍が1票。よって帝国書院に決定いたしました。

続いて、中学校社会、歴史的分野に移ります。

事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

社会 歴史的分野の発行者は、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社、学び舎の8者になります。

教科・種目別の観点としましては、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察するために、社会的事象に関する基礎的な知識や技能等を習得させるよう配慮されているか。思考力・判断力・表現力等の能力育成について配慮されているか。統計その他の資料は、最新のもので、信頼性があり、生徒の発達の段階に即しているかになります。

教科用図書採択検討委員会の主な意見ということで、ご報告いたします。どの教科書も、資料集が必要でないほど豊富に資料が載せてあると思う。中学校の歴史学習では、その時代の社会、政治経済、文化などを総体的に学ぶ。取り上げる人物が多すぎると、歴史が苦手な子にとって、拒否反応につながらないか心配である。日本と世界の出来事の間接関係を理解しておく、高校など次のステップに上がった時に選択の幅が広がると思う。日本と世界の歴史のつながりを矢印で示す育鵬社は視覚的にもつながりを感じられる。取り上げる人物が多いというのは一長一短あると思う。考える歴史という視点から編集されているかが大事である。「もし自分だったら」とその人物に置き換えて考えたり、立場の違いから物事を考えたりできると、歴史を身近に感じられると思う。文字だけでは伝わらないこともあるので、イメージをわかせるために写真資料などの役割は大きいと思う。学習をする前に目的・めあてを提示し、最後に振り返り・まとめをすることが学力向上につながると言われる。見開き2ページの中に課題とまとめが入っているとわかりやすいと思う。清水書院はそれを意図した構成になっていて見やすいと思う。教育出版は、言語活動が工夫されていると思う。

以上でございます。

以上の説明ですが、ご意見、ご質問等お願いします。

歴史分野は、とても多くの出版社から教科書が出ておまして、それぞれ認定を受けている教科書ということですから、基本的には扱っている内容は同じかと思えますけれども、検討委員会でもご意見あったかと思えますけれども、歴史はやはり暗記科目にしないようにしなければならないのかなという気持ちがあります。それよりも中学校で歴史を一通り体系的に学ぶ最初のステップになるのかなと、歴史の流れとして捉えていくところがとても大事かなと思えますが、その中で考えさせる部分、いかに子ども達に歴史を認識してもらおうのかというところがポイントになると思えます。どの教科書もそれぞれ特色があるわけですが、拝見させていただいて、清水書院は、ひとつひとつのテーマが見開きの2ページでまとまっています、ページの両側に資料や写真が配置されていて、非常に見やすい、学びやすい印象を受けました。そういった意味で私は清水書院が良いのではと思っております。

先程、多面的、多角的という説明がありましたが、それぞれの教科書

望月委員長
内田委員

教育長

はそれぞれ特徴をもった工夫がされていると思います。特に気になったのは、育鵬社の巻末に年表がありますが、日本と世界の政治的、文化的な交流という視点でまとめがしてあって、これが矢印で結ばれています。日本の歴史の流れ、また、世界の歴史を背景にして各時代の特色をふまえて理解するための一つの方法なのかなと、関連するものがわかりやすいのかなという気がいたしました。

それから東京書籍ですが、地理と同様に学習の導入から課題づくり、まとめという形までが示されておりまして、学習の流れが把握しやすいと思いました。また、各章のはじめに小学校で学習した内容が記されておりまして、中学校の歴史の学習に入る際に抵抗感がないという印象を持ちました。このような工夫は良いのではないかと思います。さらに、資料などが充実していて見やすさを感じました。

飯田委員

歴史ですが、今、教育長がお話の中で育鵬社の巻末に年表があるということが出たのですが、私は巻末ではなくて、「歴史学習のまとめ」というところが目に留まったのですが、日本の歴史重大事件とか、日本の歴史で重大な役割を果たした人物ベストテンですとか、こういったものを最後に生徒が振り返って勉強ができるのかなと思いました。また、検討委員会の中で取り上げている人物が多いという意見もあるようですが、人物から興味関心がわいて、その人物やその周りで起こった歴史を調べることができて、その点が私は良いなと思いました。

高橋委員

多くの教科書で、学習のまとめができるようにいろいろな工夫がされておりまして、社会の力がつけられるのではないかなというようにいろいろ配慮されていると思います。清水書院での「まとめてみよう」というものがありまして、学習の振り返りができるような課題が設定されています。生徒が自分で学んだことをしっかりと確認できて良いと思います。

育鵬社についても、読んでみるとすごく面白いと感じました。しかし、歴史を学ぶスタートの時点の教科書としては、取り上げている人物が少し多すぎるのではないかと感じました。ある程度歴史を学んでから読むと、副読本的な意味合いもあって大変面白いと思いますが、初めて歴史を学ぶ中学生としてはどうかなという気がしております。

望月委員長

それでは、私ですが、教育出版は各章の終わりに各時代を体感できるような、構造図を基にして、時代の特色を考えあって、表現する活動が取り入れられて、工夫されているなという印象を持ちました。どの教科書も各委員が言っているように、生徒が考えて表現できるような構成について工夫しているといった印象を持っています。

また、清水書院は歴史のひとつひとつの内容について、まんべんなく取り上げているなと思いました。すべてに付箋を付けて、チェックしま

したが、一番まんべんなく取り上げられているのは清水書院かなと思いました。歴史について非常に興味関心の強い子どもとか、あるいは反対にそれほど興味や関心のない子どもとかクラスには様々な生徒がいる中で、清水書院は、写真や図版が本文とつながるように彩色されるなど、読みやすさや考察がしやすいような工夫がされているという印象を持ちました。

ほかにどうでしょうか。

飯田委員

先程も人物の話が出ましたが、二宮尊徳を取り上げているのは、教育出版、自由社、育鵬社の3者があります。自由社、育鵬社においては、半ページから1ページの紙面にしっかり説明されています。これは二宮尊徳にゆかりのある秦野では、教科書にとりあげられているものが良いのではないかと思いました。

望月委員長

ほかにどうでしょうか。

それでは、無ければ投票に移りたいと思いますが、投票に移ってもよろしいですか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、社会 歴史的分野について投票を行います。投票用紙の配付をしてください。

—投票—

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

望月委員長、清水書院。高橋委員長職務代理、清水書院。内田委員、清水書院。飯田委員、育鵬社。内田教育長、東京書籍。

以上でございます。

望月委員長

それでは、中学校社会 歴史的分野につきましては、東京書籍 1票、清水書院 3票、育鵬社 1票、よって、清水書院に決定いたしました。

続いて、中学校社会、公民的分野に移りたいと思います。

事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

社会・公民的分野の発行者は、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の7者になります。

教科・種目別の観点といたしましては、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察するために、社会的事象に関する基礎的な知識や技能等を習得させるように配慮されているか。思考力・判断力・表現力等の能力育成について配慮されているか。統計その他の資料は、最新のもので、信頼性があり、生徒の発達の段階に即しているかになります。

教科用図書採択検討委員会の主な意見ということで、ご報告いたします。東京書籍は、各単元のはじめに小学校で学習したことを取り上げている。小中学校の関連を考えると、生徒たちがわかりやすいと思う。教育出版のように、公民で学ぶ内容が具体的に示されていると生徒が分か

望月委員長
教育長

りやすいと思う。自分たちの生活と結びつきの深い内容の部分について、例えば帝国書院は、今後必要とする知識や求められている力が演習を通して身につくよう意識されていると思う。解説が多いものよりも、生徒が身近なこととしてとらえ、自分で考え判断するという構成内容の教科書がよいと思う。公民は、自分の身の回りの生活の中で、現在、未来を含めて自分にふりかかってくる課題や生活をしていく上で必要な事柄について、自分で考えて解決する力を付けることが重要である。公民は、「対立と合意」「効率と公正」が社会を生きていく上で大切であるという見方、考え方が貫かれている。東京書籍のように、各内容の中でマークや方向性が示されていると生徒たちが分かりやすいし、先生も指導しやすいと思う。生徒が授業で何を学ぶのか、課題やテーマがしっかり示され、さらに最後にまとめができる構成になっていることが大事であり、且つ資料も分かりやすいとよいと思う。

以上でございます。

それではご意見、ご質問等お願いします。

公民というものについては、私たちの世代では公民というものはなかったわけですが、そういう意味では教科書の中でこの公民について、全ての教科書に「公民」についての説明がされています。例えば育鵬社では「なぜ公民を学ぶのか」ということが冒頭に出てきます。それから、自由社では「この教科書で学ぶにあたって」ということが出てきます。それぞれそういった形で、教育出版では「公民の学習を始めるにあたって」という表記になっておりますし、こういう表現の仕方が正当かどうかはありますが、小学校から中学校に行ったときに公民という言葉聞いて、どちらかというとそのことを理解するということが必要なのではないかと、そういう意味では、それぞれのところが工夫されているのだなと思います。その中では、教育出版の「公民の学習を始めるにあたって」というのが私としては一番わかりやすかったかなという気がいたしております。

それから東京書籍で、「公民にチャレンジ」という枠を設けて、20のテーマが「バリアフリーについて考えよう」から「文化の多様性について考えよう」まで、具体的な課題を取り上げていまして、生徒自身が考え、話し合う活動、発表ができるように工夫されているなという印象を持ちました。

ほかにどうでしょうか。

私は、公民の教科書は知識を身につけるだけのものではなく、生徒自身が社会の中で生きていくうえで、身近なものとして取り上げながら考えることができるようなものがよいと考えています。5市町の調査研究の結果を見ますと、すべての教科書が思考力・判断力・表現力等の能力

望月委員長
高橋委員

の育成について配慮されていると思います。東京書籍は、「対立と合意」「効率と公正」の見方や考え方を活用して、トラブル解決策を生徒が考えるという仕組みになっている、またやってみようとか公民にチャレンジということで小グループで話し合い、活動などをするような配慮がされている、そういうような場面が設定されていることが良いと思いました。

飯田委員

先程、内田教育長もおっしゃっていましたが、公民の教科書で何を学ぶのかということが各教科書、形は違いますが公民とはこういうもので、何故学ぶのかということが書いてあります。私は、それを見て、育鵬社の巻頭にある「なぜ公民を学ぶのか」という横に、地理と歴史と公民の概念図がありまして、これが視覚的に見やすく、わかりやすいのではないかと思います。そして、「人生ものさし」というページがありまして、生徒たちの過去、現在、未来について、考えていくにはこの「人生ものさし」というのは良いと思いました。また、平和主義条項などについてイタリアなど複数の国の憲法が紹介されていて、比べて考える機会を設けてくれている教科書だと思います。

望月委員長

どの教科書も、とにかく考えること、説明する、話し合うこと、発表するというようなことに配慮されていて、いわゆる言語活動が重視されているなという印象を持ちました。育鵬社は各章の最後に学習のまとめがあつて、それで各章の内容について、自分の言葉でまとめたり、あるいは、思考力・判断力・表現力を養う工夫がなされているかなという印象を持ちました。言語活動を重視しているということの中では、どれもそういう配慮がされているのですが、とりわけ東京書籍と帝国書院は多様な表現活動ができるようになっていくという印象を受けました。

清水書院は、巻頭に「学習のはじめに」というページを設けて、公民ってなんなのだろうという投げかけをすることで、生徒の学習の動機づけを行っているというところでは賞賛できるかなという印象を持ちました。

内田委員

公民もいろいろなところから教科書が出ていて、たしかに育鵬社の時間と空間の図というのは、とてもおもしろいなと思っております。公民は日常生活の中で、子どもたちがこれから社会の中でどのように関わっていくのかということであつたり、今何が起きているのか、世の中はどのように変わっていくかとしているのかということを読んでいけるような力をつけるということもとても大事なかなというように思っています。それで7者の教科書の中で、私が一番印象を受けたのが、教育出版の最初のところで、新聞の活用というのが4ページにわたって、非常に詳しく情報源として活用できるようところが非常に特色のある教科書になっているという印象があります。もう一つ、世の中の変化

望月委員長

の中でグローバル化というのが進んでいると思いますが、グローバル化に関しての内容や取扱いを見ると、やはり教育出版が国際平和という視点の中で、日本がどのように役割を担っていくべきかというようなところが一番記述としては、良かったのではないかなと思っています。ですから私は教育出版が良いという印象を持っています。

ほかにどうでしょうか。

それでは、無いようですので投票に移りたいと思いますが、投票に移ってもよろしいですか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、社会 公民的分野について投票を行います。投票用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

望月委員長、東京書籍。高橋委員長職務代理、東京書籍。内田委員、教育出版。飯田委員、育鵬社。内田教育長、東京書籍。

以上でございます。

望月委員長

それでは中学校社会 公民的分野につきましては東京書籍3票、教育出版1票、育鵬社 1票ということで東京書籍に決定いたしました。

続いて、中学校地図です。

事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

地図の発行者は、東京書籍、帝国書院の2者です。

教科・種目別の観点としましては、基本図・部分図・資料図などは適切に配列されているか。統計、各種の資料は、最新のもので、信頼性があり、生徒の発達の段階に即しているか。地図・絵図・索引などが適切であり、生徒の発達の段階に即しているかになります。

教科用図書採択検討委員会の主な意見はということで、ご報告いたします。帝国書院の東アジアから見た日本という視点はよいと思う。生徒はそういう視点の地図を見てびっくりするのではないかと思う。南北逆転の地図もそうだが、そういう視点、感覚を生徒たちに感じさせることは大事だと思う。小学校では3年生から社会科が始まり身近な地域学習から入るが、社会の学習以外でも地図は様々な場面で活用している。小学生は帝国書院の地図を使用しており、中学校でも慣れ親しんだものを使えるとよいと思う。写真も大きく見やすいと思う。帝国書院の「やってみよう」「地図をみる目」などのコーナーは演習的な取り上げ方がおもしろいと思う。

以上でございます。

望月委員長

以上の説明ですが、ご意見、ご質問等お願いします。

教育長

今、説明がありましたが帝国書院の東アジアから見た日本という視点

の説明がありました。大陸側から見て、日本が横にあって、通常我々の感覚は、斜めに日本があるのですが、そうではなくて横に日本があるという、こうした視点というのは、先程生徒が驚くのではという話がありましたけれども、こうした視点から日本を見てみるという、感覚的なものも必要なのかなと思いました。いつも日本が中心にある地図ばかりを見ているだけでなく様々な視点で学ぶということが、必要なのではないかと思いました。

飯田委員

先程、地理のときにも発言させていただいたのですが、地理的分野と地図は同じ方が良くないかと思いましたが、私は、帝国書院が良いと思います。それだけではなく、竹島や尖閣諸島が地図上に写真ではっきりと掲載されていて、場所やどのような島なのかということが分かりやすく良いと思います。

望月委員長

私は、それぞれ良いところがあって、大変迷いました。昨年度、小学校で採択したのは帝国書院の地図で、現在使用しています。それ以前も帝国書院の地図を使用してきたわけですが、東京書籍、帝国書院どちらの地図も大きく、わかりやすく説明されているということをおもいました。決定的なポイントはないのですが、長い間見慣れているせいも帝国書院の地図が見やすく感じるという印象を持ちました。

高橋委員

帝国書院の「やってみよう」「地図を見る目」などのコーナーは、地図を活用して社会の課題を考えることができるといいと思います。先程、教育長が言われましたが、東アジアと日本で大陸から日本を見た地図がありますが、大陸から日本へ様々な文化や文明が入ってきている、そのような交流を考えるときに、鑑真和尚のルートや遣唐使のルートなども示されていて、古代に人がどのようなルートを通して大陸に行ったのか、また大陸から来たのかということがわかりやすく書かれているので良いと思いました。色合いが慣れているせいも私も帝国書院の地図が見やすく感じるのも、また小学校からの連結ということも考えまして、帝国書院の地図が良いのではと思います。

内田委員

神奈川県がどちらも拡大版で切れてしまっているのが残念なんですけど、そういった意味ではどちらの教科書も甲乙つけがたいという印象がありますが、先程、教育長が言われたように帝国書院の大陸から見た日本列島の地図というのは普段見慣れない地図でして、異なる視点でものを見るという意味では地図帳としては良いのかなと思いました。

望月委員長

ほかにありますか。

それでは、投票に移りたいと思いますが、投票に移ってもよろしいですか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、中学校地図について投票を行います。投票用紙の配付をお

教育指導課長	<p>願います。</p> <p>—投票—</p> <p>開票の結果を報告いたします。</p> <p>望月委員長、帝国書院。高橋委員長職務代理、帝国書院。内田委員、帝国書院。飯田委員、帝国書院。内田教育長、帝国書院。</p> <p>以上でございます。</p>
望月委員長	<p>それでは開票の結果、中学校地図につきましては帝国書院が5票ということで帝国書院に決定いたしました。</p> <p>続いて、中学校数学に入ります。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
教育指導課長	<p>数学の発行者は、東京書籍、大日本出版、学校図書、教育出版、啓林館、数研出版、日本文教出版の7者になります。</p> <p>教科・種目別の観点としましては、数学的活動として、数や図形の性質などを見いだす活動、数学を利用する活動及び数学的に説明し伝え合う活動が適切に配列されているか。基礎的、基本的な知識、技能の定着を図るため、発達や学年の段階に応じたスパイラルによる学習活動は適切に配列されているか。言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて表現したり、説明したり、伝え合ったりする活動が適切に取り上げられているか。そろばん、電卓、コンピュータや情報通信ネットワークなどの利用が適切に設けられているかになります。</p> <p>教科用図書採択検討委員会の主な意見ということで、ご報告いたします。基礎基本・応用・発展について、どこに重点をおくか、どのような時間配分をするか、生徒一人一人の進度は違うのでなかなか難しい。啓林館の別冊は、教材として基礎基本から発展までそろっているのよいと思う。東京書籍はICTや情報機器など生活にかかわっている身近なものが取り上げられ、生徒が関心をもちやすいと思う。小学校では、自分の考えを説明するのが苦手な児童が多いと感じている。東京書籍のマイノートは説明の仕方やノートの作り方など参考になると思う。どの教科書にもあるが、巻末にある付録は小学生はとても好きで意欲的に取り組むので、中学生でも同じではないかと思う。言語活動が重視されている中、説明したり伝え合ったりする活動について、学校図書では説明し合う機会が取り入れられ、教育出版では自分の考えを表現できるようになっている。このような活動が多くあると数学の力がついてくると思う。</p> <p>以上でございます。</p>
望月委員長 内田委員	<p>以上の説明ですが、ご意見、ご質問等お願いします。</p> <p>数学もたくさんの出版社から出ておりまして、今説明にもありましたが、東京書籍の「数学マイノート」は、説明の方法をかなり具体的に例示してありまして、どのように説明するか、理解しているかどうかを把</p>

教育長

握するうえでは、自分の言葉で説明できるかということもあるかと思いますが、それが苦手な生徒にとっても非常にわかりやすい、勉強しやすい教科書ではないかなと思います。どれも皆工夫してあって、付録もついていて、興味や関心を引くものになっていると思いますが、そういった意味では東京書籍が特色があるかなと思います。

内田委員からお話しありましたが、どこの教科書も生徒が自分の考えを説明することについて工夫されていると感じました。その中で日本文教出版では、全国学力学習状況調査の問題が取り上げられていまして、これがどのように活用されるのかなと思ったのですが、学校では、今までの過去の問題について意識して取り組んでいるというように承知をしておりまして、そういう意味では敢えて教科書に取り上げられているというのは特徴的なことなのかなと思いました。それから教育出版は印象ですが問題数が多いなど、問題集のような印象を持ちました。それから啓林館は、別冊で最後にマスナビブックというものがついています。これは生徒が失くしてしまわないか心配をしたのですが、小学校からのつながりや生徒が興味をもって取り組む課題などが整理されているということで、問題の量も含めて、適度なかなという印象を持ちました。

望月委員長

どの数学の教科書も、小中のつながりを考えて、既習事項をもとに考えるように意識されていると思いました。

大日本図書は数学に関連した日本の伝統文化を紹介するとか、大きな貢献をした世界の数学者を取り上げたりして、国際化する今の時代を捉え、国際理解を図っているという編集の姿勢を感じました。それから学校図書は共同で学習を進めることができるように工夫されていてなかなか面白いなという印象を受けました。啓林館は、今教育長もおっしゃった別冊のマスナビブックですが、表紙も中身も非常に工夫されているなというように思いまして、こういうものがあると家庭でも子どもたちは勉強しやすいのではないかなと思いました。全国の学力状況調査を見ても、家庭での学習ということが課題であるという指摘がされている中で、こういうものがあると家庭での学習というものがしやすいのではないかなという印象を受けました。

飯田委員

ほかにどうでしょうか。

数学なんですけど、7者でしておりますが、先程から教育長、教育委員長のお話しの中にでていたマスナビブックですが、私も啓林館のマスナビブックがいいなと思いました。この中で、「学びをつなげよう」、「学びを生かそう」という二つに分かれていまして、「学びをつなげよう」のページでは、小学校で学んだことが振り返られるようになっているのが子どもたちも理解ができて、良いのではないかなと思います。また、自由研究のテーマの例などが掲載されているなど、生徒が復習をするこ

高橋委員

とや興味をもって取り組むように工夫されているように私は思いました。

啓林館の「みんなで話し合ってみよう」や「自分のことばで伝えよう」というところで、複数の考え方や解決方法がある問題を取り上げて、生徒が仲間とともに伝え合いながら考える学習ができる工夫がされていて良いと感じました。

望月委員長
教育長

ほかにどうでしょうか。

先程、言い忘れてしまったのですが、巻末にそれぞれ多面体の展開図がすぐに外れるようについておりまして、例えば啓林館の円周角の定理・発見リストという多面体の展開図がないものを扱っておりまして、こういったものに興味を持つことが、数学に臨むという意味では、必要なかなというように思いました。この円周角の定理・発見リストというのはもう一度よく見たいなという印象を持ちました。

望月委員長

ほかにどうでしょうか。

それでは、投票に移ってよろしいでしょうか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、数学について投票を行います。投票用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

望月委員長、啓林館。高橋委員長職務代理、啓林館。内田委員、東京書籍。飯田委員、啓林館。内田教育長、啓林館。

以上でございます。

望月委員長

それでは中学校数学ですが開票の結果、東京書籍1票、啓林館4票、よって中学校数学は啓林館に決定いたしました。

続いて、中学校理科に移ります。

事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

理科の発行者は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館の5者になります。

教科・種目別の観点としましては、科学に関する基本的概念の定着が図れること、さらに、科学的な見方や考え方、総合的なものの見方が育成できるよう配慮されているか。科学的な思考力、表現力の育成が図れるよう、目的意識を持って観察、実験を主体的に行い、観察、実験の結果を分析し解釈する能力や、導き出した自らの考えを表現する能力の育成に配慮されているか。科学を学ぶ意義や有用性を実感させ、科学への関心を高められるよう、日常生活や社会との関連が図られたり、環境教育の充実が図られたりするよう配慮されているか。科学的な体験、自然体験の充実を図るため、原理や法則の理解を深めるためのものづくりや

継続的な観察や季節を変えての定点観測など、科学的な体験や自然体験の充実が図れるよう配慮されているかになります。

教科用図書採択検討委員会の主な意見ということで、ご報告いたします。大日本図書、東京書籍は写真が充実して、実験の内容の説明もよいと思う。大日本図書は、秦野市の企業にある顕微鏡が紹介されている。理科はまずは興味、関心を高めることが大切で、実験・観察などを授業でどう扱うかがポイントになると思う。驚きや感動を得るためには、先が見えてしまう編集ではよくないと思う。生徒の興味を高めるよう演出している教科書もあると感じるが、探求心が広がるような教科書がよいと思う。啓林館の「マイノート」は、コンパクトにまとまっていると思う。また、生徒自身の言葉で学習をまとめるのによいと思う。実験を結果から考察するとき、自分の言葉でうまく表現できないときは、仲間と教え伝え合う学習過程を続けていけばできるようになると思う。そのような過程を載せている教科書がよいと思う。

以上です。

以上の説明であります。ご意見、ご質問等お願いします。

本当に最近の教科書はカラフルになっていますね。見やすくなって、興味を持って勉強できるのではないかと思います。生徒自身が観察や実験を行い、考えて表現するということまで行くと理想的だと思います。理科の場合はある程度学習するうえでは、特に初期段階においては、もちろん理解したうえでですが、言葉を覚えなくてはならない面があります。先程の数学では、どちらかというところまで行くと考える力がとても重要です。一方、理科の場合は、ある程度、覚えていく言葉というものがあると思いますので、特に啓林館の「マイノート」ですね、これで学んでいくことを整理されている中で、覚えていくという、これが教科書としてはとてもいいのではないかなと思います。また、啓林館と大日本図書は神奈川県の写真も何枚か使われていますし、見た目も啓林館は本当によくできている教科書ではないかなというように感じております。

私は教育出版は、単元末の「基礎基本問題」、東京書籍では「学習内容の整理」ですとか、大日本図書は、「問い・章末問題」、学校図書は単元末の「学習のまとめ」などのように、どの教科書も基礎基本をしっかりと習得できるように配慮されているなという感想を持ちました。その中でも、特に啓林館は「マイノート」と教科書の二部構成になっておりまして、基礎基本から応用力、あるいは科学的思考も育成できるように配慮されているかなとそういった構成になっているという感想を持ちました。

ほかにどうでしょうか。

私は保護者の視点から見て、子どもたちがノートをまとめる際に啓林

望月委員長
内田委員

望月委員長

飯田委員

館の「マイノート」が役に立つと思いました。また、採択検討委員会の中で、コンパクトにまとまっていると思うという意見があるように、子どもたちが使いやすいのかなと思いました。また、後ろに保護者あてに「保護者の皆様へ」という欄がありまして、これは保護者として子どもたちが1年から3年まで理科でどんなことを学ぶのかということが何となくわかっていいのかなと思いました。また、この啓林館はページのインデックスが「生命・地球・物質・エネルギー」に分かれておりまして、学習する領域が一目でわかって、子どもたちにはいいのかなと思いました。

高橋委員

教育出版は「わたしのレポート」というのがありまして、観察や実験の内容を生徒自身がまとめられるように記入例が例示されています。特に1年生にとっては丁寧な説明で大変良いのではないかなと思います。また、啓林館にも先程から何度も話にあがっていますが、「マイノート」というのがありまして、ノートのまとめ方などが示されていて、生徒にとってもとても参考になると思います。また、啓林館は、写真を効果的につかっている教科書だと感じました。写真のアップがとても多いので、生徒が興味をもって観察や実験に結びつくのではないかなと思います。大日本図書は、実物大の心臓を掲載していて、大変リアルで驚きました。

教育長

先程、内田委員からも話がありましたが、それぞれの教科書が大変きれいになって鮮やかな写真が載っていて、今、高橋委員からも心臓の話がありましたが、一瞬はっとするようなものもありますけれども、それぞれ個性があるなという印象を持ちました。先程、事務局から説明のあった大日本図書の学習内容にかかわる職業というところの原子の研究と開発という部分で、原子1個の大きさまでも観察することができるという原子間力顕微鏡、私も実は初めてこの名称を知ったところですが、これが秦野市の企業が企業名はありませんが分析機器メーカーということで掲載されている。こういったものが本市にあるということで驚いたところですが、こういったものも生徒の興味を引くのかなと思ったところです。

望月委員長

ほかにどうでしょうか。

それでは、投票に移ってよろしいでしょうか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、理科について投票を行います。投票用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

望月委員長、啓林館。高橋委員長職務代理、啓林館。内田委員、啓林

望月委員長

館。飯田委員、啓林館。内田教育長、大日本図書。

以上です。

それでは、開票の結果、中学校理科につきましては大日本図書1票、啓林館4票、よって啓林館に決定いたしました。

続いて、中学校音楽一般に移ります。

事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

音楽 一般の発行者は、教育出版、教育芸術社の2者です。

教科・種目別の観点としましては、音楽に対する感性を豊かにし、表現及び鑑賞の学習内容が相互に取扱われ、音楽活動の基礎的な能力を、共通事項と関連させた主体的な学習の展開が図れるよう配慮されているか。表現や鑑賞の教材は、多様な音楽の中から適切に選択されているか。音楽文化についての理解を深める学習内容が適切に取り上げられているかになります。

教科用図書採択検討委員会の主な意見ということでご報告いたします。同じ教材を音楽一般と器楽合奏がそれぞれ扱っていること考えると、発行者が同じ方がよいと思う。教育出版は、カラフルで紙面構成がきれいだと思う。ページ数や写真も多く、情報量が多い。しかし、音に特化し、歌う、演奏する、鑑賞する視点だと逆にポイントがしぼりにくいようにも思う。教育芸術社は、紙面が地味に感じるが、学習のポイントはしぼりやすく、まとめやすい印象がある。

以上でございます。

望月委員長
教育長

以上の説明であります。ご意見、ご質問等お願いします。

今、説明の中にもあったように、たしかに教育出版はカラフルできれいだと思います。そう思いますが、大卒の授業時間数を考えますと年間に1年生が45時間、2、3年生が35時間の授業時間数ですが、これは週に1時間程度の授業ということになります。限られている時間の中で授業を行っていますが、教育出版は、ページ数や写真が多く、情報量が多いということで、心配なのは表現や観賞などポイントがしぼりにくくなってしまうのではないかなという思いがしました。

望月委員長

どちらの教科書もすべての学年の巻末に「君が代」を掲載していますが、教育出版は、見開きでここだけが厚い紙面になっています。教育芸術社は、写真やイラストがシンプルな印象を受けました。それから生徒が音楽の学習をするうえで必要な情報に注目できるので良いのではないかと思います。また、道徳的な価値に触れることのできる歌詞が多いという印象を受けました。これは、生徒が歌、音楽を通して仲間と心を響き合わせ、成長するためのきっかけにもなるのではないかという印象を受けました。

ほかにありますか。

高橋委員

教育芸術社は、日本の伝統音楽を多く扱っていて、生徒が興味や関心をもって学習に取り組めるようなねらいが設定されていて良いと思いました。また、「日本から世界に向けた新たな発信」として、日本の伝統音楽が海外に紹介され親しまれていることも掲載されています。今、合唱祭などに取り組む学校も多いので、合唱の教材を多く扱い、声の出し方や指揮の仕方などが丁寧に示されている教育芸術社が良いのではないかと思います。

内田委員

音楽は、芸術という科目ですので、見た目のデザインの方が興味関心、あるいは感覚を養うという意味ではカラフルなデザインの方が良いのかなというように思います。先程、教育委員長のお話の中で君が代のページが厚いというのがありましたけれども、厚いだけではなく、このページのデザインを見ると教育出版の方が国歌に対する楽譜のデザインとしても良いのではないかなというように感じております。掲載されている曲についても、幅広いジャンルで選曲されていると感じております。

飯田委員

音楽は2者ということで、どちらの教科書も、曲とその曲の目標がわかるようになっていて、良いと思いますが、教育芸術社は、目次でそれぞれの曲の目標が書かれていまして、その教科書で学ぶことが一目でわかって、良いのかなと思いました。また、ビンゴゲームやリズムゲームのページがありまして、音楽の記号やリズム作りなどゲームを通して学ぶことができ、良いのではないかなと思いました。

望月委員長

ほかにどうでしょうか。

それでは、投票に移ってよろしいでしょうか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、音楽一般について投票を行います。投票用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

望月委員長、教育芸術社。高橋委員長職務代理、教育芸術社。内田委員、教育出版。飯田委員、教育芸術社。内田教育長、教育芸術社。

以上です。

望月委員長

それでは、開票の結果、中学校音楽 一般につきましては教育芸術社 4票、教育出版 1票、よって、教育芸術社に決定いたしました。

続いて、中学校音楽器楽合奏に移ります。

事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

音楽 器楽合奏の発行者は、教育出版、教育芸術社の2者です。

教科・種目別の観点としましては、音楽に対する感性を豊かにし、表現及び鑑賞の学習内容が相互に取扱われ、音楽活動の基礎的な能力を、

共通事項と関連させた主体的な学習の展開が図れるよう配慮されているか。表現や鑑賞の教材は、多様な音楽の中から適切に選択されているか。音楽文化についての理解を深める学習内容が適切に取り上げられているかになります。

教科用図書採択検討委員会の主な意見ということでご報告いたします。同じ教材を音楽一般と器楽合奏がそれぞれ扱っていること考えると、発行者が同じ方がよいと思う。教育出版は、音楽一般の教材を多く取り入れている。また、いろいろな楽器を使って演奏することができるが示されてよいと思う。教育芸術社は琴の演奏で、昔からある楽譜の形を大きく掲載している。教育出版は「荒城の月」1曲を、琴で1弦だけと2弦で演奏する方法が載せてある。教育出版は写真を多く掲載していて、生徒が楽器や合奏に興味をもたせる工夫としてよいと思う。教育出版は、資料が多くすぐに理解しやすいと思う。しかし、生徒に考える機会をもたせにくいと思う。

以上でございます。

以上の説明であります。ご意見、ご質問等お願いします。

合奏曲が多く取り上げられているのが教育出版であります。教育芸術社も幅広いジャンルの曲を取り上げてその中から生徒が選べるので良いと思います。また、琴や三味線など多くの和楽器についてもどちらの教科書でも取り上げられていますが、教育芸術社の方が琴について、とても詳しく取り上げられていますので、日本の伝統や文化ということを考えて良いと思います。

秦野市は、琴が各小中学校に4、5面、教育委員会に50面あり、各学校がクラス単位で演奏ができるようなシステムをとっていて、すでに8校ほどに50面の貸し出しがあると聞いています。そういったことから考えると、教育芸術社は、琴の演奏で昔からある琴の楽譜を大きく掲載しています。それから教育出版も扱っているのですが、教育芸術社は琴の演奏のページで「姿勢と礼儀」について取り上げていまして、よい姿勢はよい音を生むことや、琴を通して、豊かな心を学ぶ、相手を尊重し、相手に礼を尽くすという心の持ちようについて書かれています。このことは、今の子どもたちに欠けている部分ですが、道徳にもつながる価値を学ぶことができると良いと思います。それから、巻末には、写真とともに日本の伝統音楽の楽器編成がまとめられていて生徒の関心を集めることもできるのではないかなと思います。

ほかにどうでしょうか。

先程、音楽一般は教育芸術社で、それと同じ出版社の方が良いという検討委員会の御意見もあつたかと思いますが、私自身は教育出版の子どもたちが先に楽器に触れる機会といえりコーダー、それから琴も秦野

望月委員長
高橋委員

望月委員長

内田委員

飯田委員

市の場合はあるのかもしれませんが、ギターなども触れる機会が多いのかなという気がしています。そういった時にコード表といったものが、両者とも出ていますが、教育出版の場合は鍵盤との対応を掲載されていて音の関係性、ギターとキーとの関係性など関係を理解するうえでは使いやすい教科書になっているのではないかなというように思います。たしかに教育芸術社の「姿勢と礼儀」については良いと感じますが、私は教育出版の方が良いなと感じています。

教育長

器楽合奏の方も2者ということですが、まず、教育出版の発展のページになると思いますが、水道管で横笛を作ってみようというのが、私個人的にはおもしろいと思っています。あと日本の伝統楽器に生徒の関心が向くような工夫がされていると思っております。そして、教育芸術社は、先程、内田委員からもありましたが、ギターについて「クラシックギター・フォークギター・エレキギター」の3種類の違いが載っていきまして、演奏している風景なども載っているのも良いのかなと思っております。

望月委員長

今、事務局からの説明もあり、内田委員からもお話のあった音楽一般の教科書と器楽合奏の教科書で同じ楽曲を扱う場合、同じ発行者がよいのではないかということについて、確かにそうだなと思うのですが、それぞれどちらにもワークがあって、すべてを取り上げて活用することは時間的に難しいのかなという印象を受けながら、そんなふうに思いました。教育芸術社は、「アンサンブル」で生徒にとり身近な曲が多く取り上げられていると思いましたが、内田委員、飯田委員からもお話があったとおり、ギターのコード表に関しては、たしかに教育出版の方がわかりやすいと思いました。ギターに興味を持って、自分でやりだすということを考えるとやりやすいのかなと思いました。

望月委員長

ほかにどうでしょうか。

それでは、投票に移ってよろしいでしょうか。

—異議なし—

教育指導課長

それでは、音楽器楽合奏について投票を行います。投票用紙の配付をお願いします。

—投票—

開票の結果を報告いたします。

望月委員長、教育芸術社。高橋委員長職務代理、教育芸術社。内田委員、教育出版。飯田委員、教育芸術社。内田教育長、教育芸術社。

望月委員長

以上でございます。

それでは、開票の結果、中学校音楽 器楽合奏につきましては教育芸術社4票、教育出版1票、よって教育芸術社に決定いたしました。

続いて、中学校美術に移ります。

教育指導課長

事務局から説明をお願いします。

美術の発行者は、開隆堂、光村図書、日本文教出版の3者になります。

教科・種目別の観点としましては、生徒が自らつくりだす喜びを味わえるように、表現及び鑑賞の内容が適切であり、表現活動の内容を関連付けたり、一体的に扱ったりして活動の幅が広がる題材が配慮されているか。表現や鑑賞、美術文化などに係る作品は、表現の方法や教材などが多様なものから適切に選択され、生徒が関心や親しみのもてる作品が適切に取り上げられているか。印刷やレイアウトは、色彩豊かでバランスのとれた構成となっているかになります。

教科用図書採択検討委員会の主な意見ということでご報告いたします。光村図書は表現テクニックの説明等丁寧で学習を支える資料が豊富だと思う。一方で生徒にとって内容が多いのではないかと思う。光村図書は、発想を広げたり構想を練ったりする具体的な方法が記されていると思う。学習を進める上で、生徒が主体的に広げたり練ったりすることが教科書として良い視点だと思う。日本文教出版は写真や作品の掲載がきれいだと思う。日本文教出版はサイズも一回り大きく見やすいと思う。美術は書写と違い手本を真似するものではないと思う。教科書にある作品等を参考にして、自分の発想が広げられるとよいと思う。美術は教科書からヒントを得て、創作活動に広がりをもてるような教科書がよいと思う。光村図書、開隆堂のように多くの作品が例示されていると、創作活動の広がりが制限されてしまうと思う。生徒の豊かな発想を阻害してしまうのではないかと思う。

以上です。

望月委員長
飯田委員

以上の説明であります。ご意見、ご質問等をお願いします。

どの教科書も教科書とは思えないほど、カラフルで驚いたところですが、どの教科書も折込ページを利用して写真を掲載して、迫力のある作品がたくさん掲載されていると思います。私が興味を引いたのが日本文教出版ですが、その中で漫画を取り上げて、いろいろな表現と効果について漫画と昔の日本美術との共通点に注目して話し合うことができるようにするなど、こうして漫画を通して生徒たちの興味を引き立てるのは良いかなと思いました。

教育長

美術というと私の子どもの頃は今のようすばらしい教科書ではなくて、もっと素朴なものであったなという気持ちで各教科書を見ましたが、創造活動の喜びを味わうこと、真似をして描いたり創ったりするのではなく、自分の発想を大切に取組めることが大事であると思いますが、そうした意味からすると本物に出会うことや想像を広げられるような教科書が良いのだろうと思います。

そういった視点からすると開隆堂の折込ページでは、「モナリザ」が、

光村図書は、「ゲルニカ」が、日本文教出版は、浮世絵で「富岳三十六景」が原寸大で鑑賞できるようになっています。このような大きさを鑑賞できることは素晴らしいと思います。

中でも日本文教出版は、観賞分野での図版が充実していることや表現分野が多彩で生徒の関心が高まるのではないかという思いがしました。

特に、日本文教出版の2年生でしたか、巻頭に伊勢崎淳という人間国宝の方の陶芸の作品がありまして、こういったものもめったに見られるものではないんだなという、私の実感ですが、そうしたものも感受性を高めるひとつの手法かなというように思いました。

内田委員

今回3者ということで、光村図書は、ほかの2者と比べると写真といえますか、絵といえますか、インパクトが薄いかなと、相対的に文字が多いのかなという印象があります。一方、開隆堂と日本文教出版はどちらかという写真やデザインが視覚的に飛び込んでくるという印象がありますが、特に日本文教出版は、日本の作品を紹介するページでは紙の質を変えていたり、いわゆる作品の特色を感じられるような工夫があって、また扱っている作品なども非常に良い印象を受けました。私としては日本文教出版が良いかなと感じています。

望月委員長

どの教科書も視覚的に訴えるものになっていて、私はアルバム化ですかチラシ化といったようによんでいるのですが、時代の流れとともにそういった傾向になっています。どの教科書も非常に写真がきれいで、見やすいと感じました。光村図書と開隆堂の表紙の写真はインパクトがあって、最初に手に取って見てしまったということがありました。光村図書は、巻末に「学習を支える資料」のページを設けて、発想等のヒントや技法、用具の使い方を参考にできるようにしていますが、これは生徒側にとっては活用しやすいのではないかなと思いました。また、教科書に載っている生徒の表情が多いのが印象的で良いなと感じました。

ほかにどうでしょうか

高橋委員

開隆堂の1年の教科書に「人の形のおもしろさ」というところがありますが、ジーンズの端切れのキャンバスの上に、電気コードを釘で留めていく手法やアルミの針金を利用している作品が紹介されています。これは発想豊かで自由な制作につながるのではないかというように思いました。それと2・3年のはじめのページには、「美術を通して学ぶ大切なこと」として他人と違うことを大切にすると同時に他人と同じであることも大切にすると記載されています。これは、道徳にもつながりますが、生徒が創作活動の中で自分の発想が人と違っていても安心して表現することができるということにつながって、とても大切なことだと思いました。それから光村図書の「風神雷神図」も圧巻でしたが、開隆堂の「モナリザ」もぼかしや遠近法などの技法についても中学生に

望月委員長

みてほしいなという作品ですし、ゴッホもジャポニズムで日本の浮世絵にすごく影響を受けています。そういったことも載せていますので、開隆堂が良いと感じました。

ほかにどうでしょうか。

それでは、投票に移ってよろしいでしょうか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、美術について投票を行います。投票用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

望月委員長、光村図書。高橋委員長職務代理、開隆堂。内田委員、日本文教出版。飯田委員、日本文教出版。内田教育長、日本文教出版。

以上でございます。

望月委員長

それでは開票の結果、中学校美術につきましては開隆堂1票、光村図書1票、日本文教出版3票、よって日本文教出版に決定いたしました。

続いて、中学校保健体育に移ります。

事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

保健体育の発行者は4者になります。

教科・種目別の観点としましては、生徒自ら課題を設定し解決に向けて取り組み、その過程を振り返る学習により、問題解決の能力を育成することに適した内容になっているか。健康・安全について生徒が興味関心を高め、科学的な理解を促すための資料が取り上げられているか。科学的な理解を深め、思考力・判断力等を育成するために知識を活用する学習が適切に取り上げられているかになります。

教科用図書採択検討委員会の主な意見ということで、御報告いたします。学研教育みらいは平塚や箱根が載っているので子どもにとって身近に感じると思う。またAED・自転車の事故・熱中症・アレルギーなど日常生活に則している教材を取り上げていると思う。どの教科書も資料が充実しているが、大修館、学研教育みらいが多い。東京書籍は紙面が見やすく挿絵も多く、生徒に考えさせる内容が多いと思う。大日本図書は絵や写真が大きくて見やすいと思う。学研教育みらいは生徒の実際の生活に結び付けている部分があると思う。東京書籍は写真や挿絵がたくさんあり、思考力を高める取り組みもあると思う。学研教育みらいは「キーワード」や「探求しようよ」などで学習を深められると思う。東京書籍や大日本図書は図柄など大きくしてあり見やすいと思う。

以上でございます。

望月委員長

以上の説明であります。ご意見、ご質問等をお願いします。

高橋委員

学研教育みらいは、保健分野で写真などの資料が多く掲載されている

という印象を受けました。また、発展として、「自転車事故と運転者の責任」について取り上げ、生徒にとっても身近なものとして、自転車の運転の責任について考える機会を設けているのは良いと思います。大修館は、心の健康について、「心も“かぜ”をひく」というトピックを掲載して、つらいと感じることはだれにでもあることやその時には相談すること、具体的には「24時間いじめ相談ダイヤル」や「子ども人権110番」等の電話番号が掲載されているなど、安心して生徒自身が対処できるように投げかけていて、最近の中学生が命を落とすなどの痛ましい事件を考えますと一番求められているものが掲載されていると感じました。

内田委員

保健体育に関してですが、運動やスポーツを通して得られる効果やそれを、自分自身の体力向上につなげていくという観点は、今の時代とても重要なことだと思います。文部科学省でも「早寝早起き朝ごはん」という取組を推奨していますが、東海大学のスポーツ医科学研究所の先生と、健康調査や運動を通して体力向上の取組を推進してきたしぶさわ幼稚園の「早寝早起き朝ごはん」プログラムが、今年の3月に文部科学大臣表彰を受けたという結果も大切な成果だと思います。この取組は、秦野の地元にある東海大学と連携することが有効であることの一例です。例えば、柔道の山下選手、国民栄誉賞をもらっていますが、場合によっては学校に来ていただくことも不可能ではないという気がしております。山下選手の写真も使われている大修館では、「運動やスポーツの体への効果」の学習で、得られる効果や体力を高める運動を学び、生徒自身が自分の体力を高めるための計画を立てる構成になっていて良いと思います。また、先程、高橋委員がいわれたように「心も“かぜ”をひく」というようなことがありましたが、ストレスマネジメントのこともありますので、体力をつけるという延長線上にもっていくこともできると思いますし、私は大修館が良いと思っております。

飯田委員

検討委員会の中でもあるように、東京書籍は、本が大きいということもありますが、大変紙面が見やすいと思います。インデックスが学年別にわかれている、生徒たちが扱いやすいのかなと思いました。また、口絵の部分の「スポーツを支える人」に興味をひかれまして、光を浴びる選手だけではなく、監督、コーチ、トレーナー、マネージャー、そしてアナリスト、こういったスポーツにしても裏方がいることで、選手が輝いて見えると思っております。そういった面では、生徒も幅広く色々なスポーツを捉えることができるのではないかなと思っております。また、東京書籍は、図や写真などがバランス良く配置されているような印象を持ちました。

望月委員長

大修館は、非常にユニークな部分がありまして、学習の見出しが名詞

止め、体言止めが多いのですが、用言、いわゆる動詞や形容詞を用いています。これは、生徒側にとってみれば非常に印象に残ることではないかなと思います。この点はほかの教科書よりも配慮されていると思いました。また、全国的にもそうですが、特に本市では、今、大きな体育の課題は、子どもの体力づくりということです。体力づくりという一つの視点から考えますと、大修館は相当なページ数を割いて、体力を高めるために、新体力テストを本文中に資料として掲載するなど、生徒自身が自分の体力を把握することができるような工夫がされているという印象を持ちました。

教育長

この保健という分野ですが、大修館と東京書籍の中で、東日本大震災の時の釜石の奇跡といわれた釜石市の防災教育が大分大きく取り上げられていて、大修館では「中学生による率先避難の例」というのが釜石市の例ですが、また、群馬大学の片田先生がやっておられた防災教育、この中では率先避難ということで取り上げられている特色のある取り組みだなと思いました。学研教育みらいは、探究や発展の内容が日常生活に即して生徒が身近に考えることができるのではないかなと思いました。それから、各章末に「章のまとめ」ということで、言葉や基礎基本の知識の習得とその活用について問題が掲載されているので、これは授業の中で活用できるなと思いました。それからスポーツを通じた国際交流ということで、先程、事務局の説明にありました平塚市が取り上げられています。身近なところが取り上げられているなという印象を持ちました。

望月委員長

いよいよ今、東京オリンピックのことが大変話題になっているのですが、2020年オリンピック・パラリンピックの日本開催について紹介していますが、例えば大修館は、巻頭の見開きページで、学研教育みらいは巻末の「日本とオリンピック」のページになるが、今回採択する保健体育の教科書は28～31年度に使用するため、開催時期に重なることから、生徒に東京オリンピックの関心を持たせるには良いと思います。それから、どの教科書も最後に、体のつくりとか仕組みといったものが掲載されていますが、4者を比べると大修館が一番インパクトが強いと感じました。大修館はきれいにまとまっていて、かつインパクトがあり、生徒からすると読みやすいかなと思いました。

ほかにどうでしょうか。

よろしければ、投票に移りたいと思いますが、よろしいですか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、保健体育について投票を行います。投票用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長	<p>開票の結果を報告いたします。</p> <p>望月委員長、大修館。高橋委員長職務代理、大修館。内田委員、大修館。飯田委員、東京書籍。内田教育長、学研教育みらい。</p> <p>以上でございます。</p>
望月委員長	<p>それでは、開票の結果、中学校保健体育につきましては東京書籍1票、大修館3票、学研教育みらい1票、よって大修館に決定いたしました。</p> <p>続いて、中学校技術・家庭 技術分野に移りたいと思います。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
教育指導課長	<p>技術分野の発行者は、東京書籍、教育図書、開隆堂の3者になります。</p> <p>教科・種目別の観点としましては、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得のために、製作、整備、操作、調理などの実習や、観察・実験、見学、調査・研究などの実践的・体験的な学習活動が、適切に取り上げられているか。生活と技術とのかかわりについて理解を深めるよう配慮されているか。進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てるための学習活動や資料等が、適切に取り上げられているかになります。</p> <p>教科用図書採択検討委員会の主な意見ということで報告いたします。</p> <p>東京書籍は、同じページに木材、鉄、プラスチックについて加工の仕方が掲載されており、比べられるのでわかりやすいと思う。教育図書は、ミニトマトの露地栽培など、広い土地がなければできない実習例が掲載されていると思う。東京書籍は、実習例の選択幅が広く、生徒がやってみたいと思う内容が取り上げられていると思う。東京書籍は、小学校との学習項目の接続箇所や基礎基本的な事項を示す箇所が多く充実していると思う。東京書籍は、情報モラルの説明が多く、生徒が理解しやすいと思う。</p>
望月委員長 飯田委員	<p>以上でございます。</p> <p>以上の説明であります、ご意見、ご質問等お願いします。</p> <p>東京書籍は、本が大きいということから、本当に見やすいという印象を受けました。また、検討委員会の報告にも出ておりましたが、同じページに木材、金属、プラスチックの加工の工程が手書きから切断、部分加工、組立までが一つのページで見れるというのは生徒にもわかりやすく良いのかなという印象を受けました。</p>
望月委員長	<p>東京書籍は、写真やイラストなど資料が多く、生徒にとって参考にしやすいのではないかと思います。教科書のはじめに実習を安全に行うことができるように資料のページを東京書籍と開隆堂が設けていますが、この安全に行うというのは技術家庭や体育といったものにとっては非常に大事なことです。東京書籍は4つの分野ごとにコーナーを作ってそれぞれに応じた安全への配慮を掲載していて非常にわかりやすいと</p>

高橋委員

感じました。

検討委員会の資料の中にもありましたが、東京書籍は、実習例が多くあり、生徒が選択する幅が広がり、意欲をもって取り組みやすいのではないかと感じました。また、実習例に難易度が示されていて、生徒自身が自分に合ったものを選べる工夫がされていて良いと思いました。

教育長

先程、事務局から説明のあった野菜の栽培のところで、教育図書の大根の栽培が一つあって、それから、露地で作るミニトマトというのがありますが、幅が2メートル70センチで幅が90センチということで相当大きな事例として取り上げられている、これを学校でやる場合にこういったものが用意できるのかなと疑問に思いました。それから、東京書籍は、生徒が学習に対する関心を持てるような学習題材を取り上げている箇所が一番多いなと思いました。また、巻末に防災手帳というものがありまして、切り取って折って使うということで情報の確認ですとか身近な材料として使うようなものがありまして、例えば家庭において対応できるというようなものなので、有効利用ができるのかなと思いました。

内田委員

今、皆様のご意見ですと東京書籍が一番良いとのご意見だと思いますが、たしかに東京書籍も防災手帳や情報モラルの記述が良いと思っております。同じく情報モラルに関しては、開隆堂も、ネットワークセキュリティなどの相応の記述があって、知的財産の保護ということできっかりと単元のテーマを設けています。探求ですけれども循環型社会の記述についても良いと感じております。これから知的財産というのは重要な視点ではないかなと思います。東京書籍も扱っていますが、開隆堂の方がより詳しく掲載していて、良いと思っております。

望月委員長

ほかに追加意見ありますか。

よろしければ、投票に移りたいと思いますが、よろしいですか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、技術分野について投票を行います。投票用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

望月委員長、東京書籍。高橋委員長職務代理、東京書籍。内田委員、開隆堂。飯田委員、東京書籍。内田教育長、東京書籍。

以上でございます。

望月委員長

それでは開票の結果、中学校技術・家庭 技術分野につきましては東京書籍4票、開隆堂1票、よって東京書籍に決定いたしました。

続いて、中学校技術・家庭 家庭分野に移りたいと思います。

事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

家庭分野の発行者は、東京書籍、教育図書、開隆堂の3者になります。教科・種目別の観点としましては、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得のために、製作、整備、操作、調理などの実習や、観察・実験、見学、調査・研究などの実践的・体験的な学習活動が、適切に取り上げられているか。生活と技術とのかかわりについて理解を深めるよう配慮されているか。進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てるための学習活動や資料等が、適切に取り上げられているかになります。

教科用図書採択検討委員会の主な意見ということで報告いたします。東京書籍は、写真等が見やすく、実習ページが順序立てて載っていて分かりやすいと思う。東京書籍は、料理のレシピ本のように教科書を見ながら料理を作ろうとした時、機能的で開きやすいと思う。情報量は、教育図書も東京書籍も多いと感じる。東京書籍は、文字が読みやすいが重たい、大きいという面もあると思う。

以上です。

望月委員長
飯田委員

以上の説明であります。ご意見、ご質問等お願いします。

3つの教科書を見させていただきまして、東京書籍は、技術分野と同じ大きさで大変見やすいと思いました。また、中にメモリがふってありまして、簡単に色々なもの大きさとか、長さについて確認することができて便利かなと思いました。

望月委員長

ほかにどうでしょうか。

東京書籍は教科や領域の横断的な学びにつながるように小学校との連動性を示すマークや他教科や道徳などとの関連性を示すマークが使われていて良いという印象を持ちました。開隆堂につきましては、食生活の内容では、実習例だけではなく、「調理実習例にあと1品加えてみよう」や「電子レンジを使ってみよう」で生徒が自分で考えて調理に取り組むことができるような工夫がなされていて良いなと思いました。

高橋委員

東京書籍が防災の観点から行政による援助、自助共助の連携が必要で3日分の食糧や衣類などの備えが必要だという記載があったり、中学生の体を作る元となる食生活について、何をどれくらい食べたらいいかということを、手量りや目量りで推測できるようになっているのは、ぜひ覚えておいた方が良くないかなと思いました。それから、食品成分表をどの教科書も載せているが、東京書籍は、肉の部位ごとに細かく記載されているので調理する際に参考にとすると良いと思います。また、小学校の家庭科とのつながりもマークで示されているのでそれまでの学習経験を確認したうえで中学校の食品分野の家庭科につなげることができるので大変良い取り組みだと思います。

内田委員

今、地区ごとに一貫教育を進めているということもありますし、その

教育長

中で中学生が小学生あるいは幼稚園の園児と関わりを持っていくような体験をしていくということもあると思いますが、開隆堂のはじめのところで、幼児とのふれあい体験というところが大変特色があって、幼児とのふれあいの中での具体的な体験の関わり方が具体的に示されているところは、一貫教育を具体的に進めていくうえでは、参考になる教科書ではないかなと思います。また、「持続可能な社会」の実現に向けて生徒自身が主体的に考えるページが設けてあって、そういった意味では、家庭科を通して生徒がこれから生きていくうえでの色々なスキルを身に付ける教科書としては、開隆堂の印象が良かったなと思っております。

3者ともそれぞれ学習の目標というものが記載されていますから、それぞれ目的、意思をもって学習に取り組むことができるように工夫がされているというように思いましたが、そういった中で教育図書巻頭に年中行事と私たちの暮らしというのと人生のお祝い事という、どちらかという今この時代では忘れ去られようとしていることを、あえて巻頭にもってきているというところに関心を持ちました。東京書籍の調理について、検討委員会の報告にレシピ本という報告がありましたが、本当にレシピ本と見紛うような体裁で紹介している。そのまま家でこれを見ながら調理ができるというおいしそうな調理例が鮮やかな写真で掲載されているという印象を持ちました。また、開隆堂についても調理例がわかりやすいという印象を持ちました。

望月委員長

ほかにありますか。

なければ投票に移りたいと思いますが、よろしいですか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、家庭分野について投票を行います。投票用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

望月委員長、開隆堂。高橋委員長職務代理、東京書籍。内田委員、開隆堂。飯田委員、東京書籍。内田教育長、東京書籍。

以上でございます。

望月委員長

それでは開票の結果、中学校技術・家庭 家庭分野につきましては東京書籍3票、開隆堂2票、よって東京書籍に決定いたしました。

続いて、中学校英語に移りたいと思います。

事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

英語の発行者は、6者になります。

教科・種目別の観点としましては、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」についての言語活動をバランスよく配置し、コミュ

望月委員長
教育長

ニケーション能力の基礎を養えるように工夫されているか。入門期では、小学校で扱った音声や表現などを取り入れるなど、小学校における外国語活動との関連に留意した構成となっているか。世界の文化やくらしなど、国際理解を深めることにつながる興味・関心を、引き出し育てる内容が適切に取り上げられているかになります。

教科用図書採択検討委員会の主な意見ということで報告いたします。三省堂は、題材に教科を超えた幅広い教材が取り上げられている。時代を超えてメッセージとして伝えたい内容が充実していると思う。三省堂は、内容、構成、配列、写真・イラスト、文法の整理などがあり扱いやすいと思う。東京書籍は、1年生の入門期の扱いが丁寧に行われている印象を受けた。小学校との接続を意識していると思う。どの教科書もゲーム的な要素を取り入れて生徒の関心を高める工夫をしているが、開隆堂の導入は楽しそうに感じる。光村図書は、教材のストーリー性など、内容に凝っていると思う。将来的に小学校3年生から英語が始まる。そうなるまでこれまで以上に小中学校のつながりが重要になってくる。中学校で生徒が戸惑わないようにすることが大事だと思う。

以上です。

以上の説明であります。ご意見、ご質問等お願いします。

小学校の外国語活動が始まり、まもなく3年生という中学年から取り組むこととなります。小学校で学んできたことが中学生になって途切れるようなことがないようにしなければならぬと思っています。そういったことを踏まえた中で、東京書籍は、1年生の始めに日常会話などを音声から入ることで、小学校からつながるように構成されているというように思います。また、2年生でタイムリーとあってよいのでしょうか、話題となっている女子サッカーを取り上げています。こうしたことも生徒の関心を高めるという意味合いがあるかと思っています。それから、光村図書は、教材のストーリーの内容にこだわりがあるように感じましたが、そういうことからか、これまでの教科書とは若干違う印象を受けました。三省堂は、検討委員会の報告の中で扱いやすいというお話がありましたが、取り上げている教材が生徒の興味や関心を高めて、英語だけにとどまらずに生き方などを考える機会にもなるのではないかなと思いました。

高橋委員

東京書籍は、見開きの左右のページの構成が決まっていることや、まとめを丁寧に示されていることなど生徒にとって学習しやすいのではないかなと思いました。また、開隆堂では、マララさんのスピーチを取り上げていますが、マララさん自身英語を母国語としない中でのスピーチは、生徒にとって年齢も近いので、生き方について考える機会としてもとても良いと思います。教育出版は、物語中の登場人物が修学旅行に行

く場面がありますが、よくある京都の名所、旧跡の紹介ではなくて、料亭での食事について取り上げるなど、教材としての中身が大変面白く、中学生も楽しんで読める内容だと思いますので教育出版が良いと思います。

飯田委員

教育出版の後ろの付録に、基礎基本の定着を図るための振り返り学習ができるようになっているように思います。赤色のシートを使うことで復習などに役立つのかなと思ひまして、これは良いなと思ひました。それから、三省堂は、3年の教科書でプロテニスプレーヤーの錦織選手のことを4ページにわたって掲載されています。今話題の錦織選手ですが、インタビューの場面でも英語で受け答えしているのを子どもたちが見て、こういった話題に興味を持つことで、英語に興味をもっていけるような気がしました。この記事は生徒たちの興味をひく題材としては良いと思ひました。

内田委員

たしかに今、飯田委員が言われたように、赤いシートは良いですね。実際に英語という今、中学校の英語だとブロック体のみになっています。三省堂では、総称体という形になっていますが、筆記体に近い形で、付録にはなるかと思ひますが、しっかりと筆記体のような書き方が出ています。これは東京書籍にも出ていました。こういったものを早いうちから目に触れていくというのも大事なのかなと思ひます。そういった意味では三省堂は良いと思ひます。

望月委員長

東京書籍の「Daily Scene」では、場面におけるコミュニケーションの仕方が学ぶことができる題材が提示されているかなという印象を受けました。また、1年生の入門期では「Hi, English」という表現を用いていますが、どの教科書同様に、小・中の連携・接続を重視しているということが良くわかります。入門期に連携・接続について重視することはわかりますが、私も中学校で英語を教えていたことがありますので、あまり早く文字に入ってしまうというのは英語嫌いを作ってしまうという感覚があります。入門期を見ますと、c a nとかd oといった一般動詞の扱い方が文字として入っていることについて、如何なるものかという感想を持ちました。

それから、意外に面白かったのは光村図書ですが、中学生の生活を描いて、ストーリーに構成されていて、大変興味のある内容が載っているなと思ひました。生徒は非常に喜ぶのではないかなと思ひます。また、読み物教材として、これは色々と考え方もあるでしょうが、杉原ちうねさんについて扱っているという姿勢に敬意を表したいなと思ひます。それから東京オリンピックで普通は1位になった人を取り上げるのですが、東京オリンピックの時に一番最後になった当時のセイロンの選手で3周遅れになってしまっ、最後皆で拍手して迎えるという非常に感動

的なことを取り上げていて、当時の記憶が蘇ってきました。非常に充実した読み物になっていると思います。

三省堂は非常に工夫されてます。平成23年に文部科学省がいわゆるコミュニケーション能力の育成のためにということで「外国語能力の向上に関する検討会」を設置しまして、そこでいくつか提言がされているのですが、学習到達目標のCAN-DOというリストを作るようにということが提言されています。秦野市も今作っています。どの教科書もその趣旨を生かしたものが掲載されていますが、やはりこの三省堂が、各学年巻末にわかりやすくまとめられていて、教育現場の先生方は非常に使いやすいのではないかなという印象を持ちました。それから、「聞く・話す・読む・書く」の4領域のバランスがとれているなと思いますが、全体的に、内容、構成、言語材料の配列、文法、写真、イラストなどがうまく配列されているなという印象を持ちました。総合的にみると三省堂が色々な面で工夫されているなと思いました。

ほかにありますか。

なければ投票に移りたいと思いますが、よろしいですか。

—異議なし—

望月委員長

それでは、英語について投票を行います。投票用紙の配付をお願いします。

—投票—

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

望月委員長、三省堂。高橋委員長職務代理、教育出版。内田委員、三省堂。飯田委員、三省堂。内田教育長、三省堂。

以上でございます。

望月委員長

それでは、開票の結果、中学校英語につきましては三省堂4票、教育出版1票、よって三省堂に決定いたしました。

これまで各種目別にご審議をいただきまして、これですべて終了したわけですが、15種目すべての採択を終了いたしました。一覧表をつくっていただいて、それを配付した上で、これを採決いたしたいと思います。

事務局のほうで議案としての資料を作成いたします時間を若干いただきたいと思います。

暫時休憩とします。

—休憩—

望月委員長

再開いたします。

それでは、議案第18号「平成28年度に使用する中学校の教科用図書採択について」、ただいまご審議いただいたものを一覧表にいたしました。説明をお願いいたします。

教育指導課長	<p>それでは、ご審議いただいた結果を議案18号として報告いたします。平成28年度に使用する中学校の教科用図書について、種目発行者の順で報告します。</p> <p>国語、東京書籍。国語・書写、東京書籍。社会（地理的分野）、帝国書院。社会（歴史的分野）、清水書院。社会（公民的分野）、東京書籍。社会・地図、帝国書院。数学、啓林館。理科、啓林館。音楽（一般）、教育芸術社。音楽（器楽・合奏）、教育芸術社。美術、日本文教出版。保健体育、大修館。技術・家庭（技術分野）、東京書籍。技術・家庭（家庭分野）、東京書籍。外国語・英語、三省堂。</p> <p>以上でございます。</p>
望月委員長	<p>ただいまの提案につきまして、審議に入ります。ご質問ないしはご意見があればお願いします。</p> <p>—特になし—</p>
望月委員長	<p>それでは、採決に移ります。</p> <p>議案第18号「平成28年度に使用する中学校の教科用図書の採択について」、原案のとおり決することでご異議ございませんか。</p> <p>—異議なし—</p>
望月委員長	<p>よって、議案第18号は原案のとおり可決されました。</p> <p>続きまして、議案第19号「平成28年度に使用する小学校の教科用図書の採択について」、提案理由の説明をお願いします。</p>
教育指導課長	<p>平成28年度に使用する小学校の教科用図書についてお願いします。</p> <p>小学校教科用図書につきましては、無償措置法により、平成27年度から平成30年度まで4年間は継続して同一の教科書を採択しなければならないこととされています。昨年度から本年度に関しまして発行者等の問題もなく教科書が配付されており、来年度は2年目でございますので、28年度の小学校教科書は、今年度同様に、次のように報告いたします。</p> <p>国語、東京書籍。書写、東京書籍。社会、教育出版。地図、帝国書院。算数、啓林館。理科、啓林館。生活、東京書籍。音楽、教育出版。図画工作、日本文教出版。家庭、開隆堂。保健、光文書院。</p> <p>以上でございます。</p>
望月委員長	<p>ただいまの提案につきまして、審議に入ります。ご質問ないしはご意見があればお願いします。</p> <p>—特になし—</p>
望月委員長	<p>それでは、採決に移ります。</p> <p>議案第19号「平成28年度に使用する小学校の教科用図書の採択について」は、原案のとおり決することよろしいでしょうか。</p>

望月委員長

—異議なし—

よって、議案第19号は原案のとおり可決されました。

続いて、議案第20号「平成28年度に使用する学校教育法附則第9条による教科用図書の採択について」、提案理由の説明をお願いします。

教育指導課長

平成28年度 附則第9条本についてです。他の教科用図書と大きく性格が異なるものであります。

この附則第9条による教科用図書と申しますのは、特別支援学級においては、文部科学省の検定を経た教科用図書または文部科学省名義の教科用図書以外の図書を採択することができる規定でございます。よって、秦野市内におきましても、小中22校におきまして、特別支援学級の児童生徒に対して、文科省の目録に登載された教科用図書以外のものの希望等を保護者に呼びかけ、毎年、教育委員会で議案として扱っております。

今年度、一般図書から教科用図書を希望した児童生徒は、小学校が22名、中学校が23名でございます。この45名は、一般図書、すなわち、教科用図書を一般図書に差し替えながら特別支援学級での教育活動に生かすという形になります。

なお、資料、選定理由一覧等、小学校22名、中学校23名の児童生徒の選択理由等が記されております。この内容については、教育指導課の特別支援教育担当指導主事が、その児童生徒の特性を確認し、保護者が希望しているという意向の確認をすべて行った中で今回の議案提出になっております。

ご審議をよろしくお願いいたします。

この資料をもって、教育委員会会議で承認された場合、児童・生徒が来年度使用できる教科用図書に認定され、来年4月に供給されることとなります。

以上でございます。

望月委員長

ただいまの提案につきまして、審議に入ります。ご質問ないしはご意見があればお願いします。

—特になし—

望月委員長

それでは、採決に移ります。

それでは、議案第20号「平成28年度に使用する学校教育法附則第9条による教科用図書の採択について」は、原案のとおり決することでご異議ございませんか。

—異議なし—

望月委員長

よって、議案第20号は原案のとおり可決されました。

そのほか何かございますか。

望月委員長

—特になし—

それでは、以上で臨時教育委員会会議を終了いたします。